

私の博物誌

題字 石川進

第四回 「太刀風」 (前)

目の前に一点の作品が立てかけられ、カンヴァス全面に美しいブルーの色彩が施されている。ブルーには濃淡、潤濁がなく、ただひたすらに均一でなければならぬことを強調してシンと静まり、見る私には鎮静と同時に、一定の距離を磁力の如く発信する。

体を移すと奥行きが揺らぎ、離れるとカンヴァスの奥は、深々とした黒の紗に支持されている。切り口の両サイドはなだらかに内反し、太古の地殻の内奥を暗示するが、実は数ミリ程度の奥行きがそれを演出している。

切り裂かれた画面に近寄り、覗きながら聞き耳を立てている自分が居る。画面の中に縦に切り下ろされた四本の長短のある刀痕の深部から生まれてくるらしい音、私はかすかな音に聞き耳を立て「この音は、昔からかなりの頻度で聞きながら生きて来た音だ！」。そう思いながら、日頃の自分の生活を反

芻する。七十年の記憶のフィルムを逆回しにし、スローにして「アツ」と小さな声をあげる。

四本の長短のある刀痕から漏れ出る音は、筆が紙に喰い付いて、自分の理想とする線を導き出そうと腐心している学書者が恒常的に聞く音、筆が紙を截って進む音ではないか。

聞き耳を立てながら目前のフォンタナに問う。

「あなたの切り裂く対象は、何故ブルーなのか？」と。

フォンタナは澄んだ瞳を向けて、反対に質問を返すのだ。

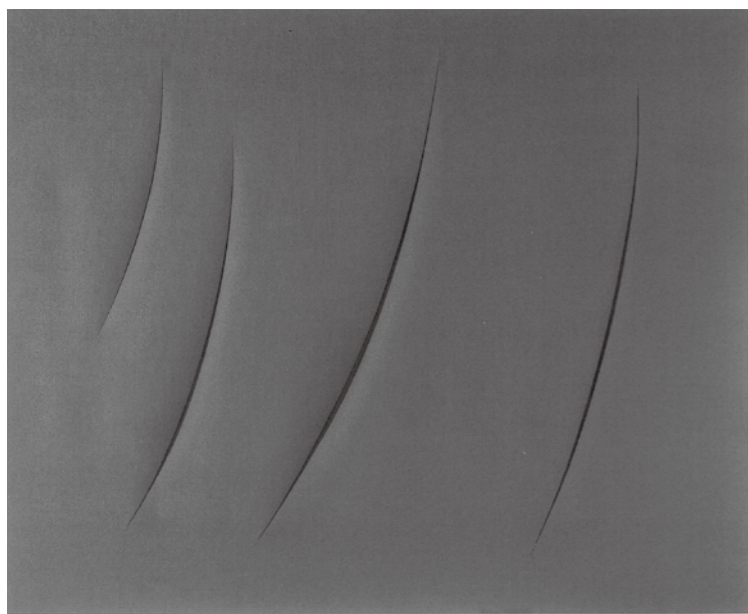
「君は何故白なんだい？」

私は答える。「書は白だけではないんだよ。そこに存在させる線、点、面を予期し、そのうえそれらを支持し、最大限の演出をする為の白であり、無限に存在し得る明から暗に至る全色の諧調のうち、導き出された全てのも

のへの演出効果を、最大限に考慮した結果として、帰結した背景が白であったということなんだよ」と。

「更に墨色の微妙なベクトルを反映して選ばれる白をはじめとする沢山の紙の色でなければならぬことは無論のこと、あなたの空間概念の多数の作品が示すように、何色の背景でも存在は可能なのだと思う。そして、それは何色の背景の上にも書の存在が可能なようにね」と。

目を作品に戻すと、明らかに運刀(運筆)のストロークの呼吸には相違があり、作品の刀痕は四本が微妙なバランスを保っている。



「空間概念一期待」ルーチョ・フォンタナ
1959～60年 油彩・カンヴァス 80×100cm いわき市立美術館蔵

角度の相似の三本と、最後の線であろう左から、二番目のやや短い線は角度が立ち、四本の線の入刀と出刀、いづれも一線上に並列せず、書の世界の「分間布白」と、「間架結構」を素直に理解させ、ストロークの長短は、切り込みの気合と時間経過を察知させ、角度を変えた一本は、運動方向への退屈さを是正、単純な作品を視覚的に揺さぶる効果を知っている。切り込み時間の長短は、また音楽的でもある。

伴だったのは、佐々木吉晴館長の解説を直に聞くことが出来たことだ。冷静で淡々とした彼特有の解説に、七十人に近い鑑賞者は異次元の眼福に固唾を呑んで聞き入った。



書いている人

石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問

今日も安全運転

- 短期免許取得
- 運転免許ローン有
- 託児所完備
- 卒業生に傷害保険付

公認 湯本自動車学校

いわき市常磐水野谷町千代鶴1の2 ☎43-7781

Super **ViO30**

土木建設機械・販売・リース

株式会社 協和機工

KYOWA

代表取締役 大淵 利男

〒971-8143 福島県いわき市鹿島町下蔵持字戸の内70の1
☎(0246)29-4100(代) FAX(0246)29-4200

より厳かに より荘重に……

宗教・宗派をとわず
どのような葬儀も
お任せください。

本多斎苑

〒971-8111 福島県いわき市小浜大原六反田町7-5
TEL(0246)92-1500 FAX(0246)92-1505

●大ホール200名収容 ●小ホール80名収容